

「場づくりリーダーシップ」レポート01

「誰もがもっと高められる思考力」の話

はじめまして。

拙著「場づくりリーダーシップ」に関連した第2回目レポートをお届けします。

今回は、「思考力」、つまり考える力をご紹介します。と思います。

一口に考える力と言いますが、考えることは簡単ではありません。

例えば、コンサルタントの〇〇さん（元のレポートでは名前を挙げていましたが、ここでは伏せさせていただきます。とても有名な方です）。彼は、考えることの重要性を説いている人です。読者の中にも憧れている人はいるかもしれません。ただ、思想界全体では、重鎮たちから考えが浅はかだと言われたこともあるようです。

バブルの頃「国の財力を使って東京近隣の農地を全部工場に変えた方が、日本の「土地あたり」の生産性が上がる。全部工場に変えよう」と主張した人たちがいました。彼も、そこまで極端ではありませんでしたが「工場のほうがG N Pをあげるから農地は変えたほうが良い」という論調の旗手の一人でした。

ところが、どうでしょう。

それから20年ほどたった今は、食料自給率が問題になっています。彼らの言い分どおりに農地を本当に全部工場にしていたら、今は大変なことになります。

原因は「人間」という大元まで戻って話

をせずに、その時の「利益率信仰」を信じて疑わなかったからです。考えると一言にいいですが、「発言する」とか「聞いたことを言う」のは簡単でも、「考える」のは難しい、良い例だと思います。

特に、マスコミの論調に流されて、その時代の一時的な風潮を土台に考えると長期的には間違えることにつながるがあります。時流は確実に変わるからです。

考の深さ・浅さの問題は、僕自身も含め、みんなが抱えている問題です。

もし浅い考えで発言し続ければ、一貫性がなくなって信頼を失うこともあります。

よりポジションが高くなれば、浅はかな考えが周囲を振り回すことにもつながりません。正直な話、経営層の思考の浅さが原因で問題を抱えている会社組織は多いものですから、あなたも実感として「ああ、そういうことか」とご理解いただけたと思います。

より価値の高い仕事をするためにも、今抱えている組織上の問題を解決するためにも、考えを深める「思考の技術」は無くてはならないものです。そこで、前段長くなりましたが、「思考力」についてお話ししたいと思います。

思考は内面の活動

最初に注意点をお話しておきます。思考は、「内面的な活動」で、他の誰かが指摘しにくいという話です。

よく誰か他の人に対して「もっと考えろ」という人がいます。でも、内面で行う「考える作業」は見えない活動。現状何が悪いのか、どう改善すれば良いのかを具体的には注意することも指導することもできません。具体的でなければ、伝わらない。いわれた本人も「考えているよ」と自己正当化するのが普通です。「考えている人に、『考えろ』と指導する」なんて「考えが浅いんじゃないの?」と思われてしまっても仕方がない。

思考について伝えることは難しいのです。

では、この紙面を使って何を伝えるのか。それは、思考の「所作」です。考えを深めるためのプロセスや注意点についてお話ししたいと思います。

僕らは思考をショートカットする

思考について、とても大事で、自覚しておくのと役立つ命題があります。それは、「僕たちにとって、考えることは面倒な作業だ」ということです。

例えば、あなたの会社は、今、居心地がよいですか？力を尽くして仕事をし、貢献したいと心から思えるでしょうか。それとも、何か不満があって、それがいやでいやで仕方がない状況でしょうか。度合の違いこそあれ、おそらく、後者の人が多いのではと思いますが、いかがでしょう。

もし、Yesと答えたとして、なぜ、社

内の風通しが悪いのか。

あなたは立ち止まって考え、その理由をつきめとることがありますか。

どんなに会社が嫌だと感じていても、具体的に何が問題なのかを立ち止まって考え、解決策を生み出す人は一握りの人しかいません。多くの人は、どんなに嫌な状況でも、そのまま放置して、いつもどおりのルーティンワークをこなすことを選ぶものです。

肉体労働より知的労働の方が5倍大変だといわれます。5倍かどうかは解りませんが、「何が嫌なのか」「原因は何か」「解決策は何か」を考えずに、考えなくてもできる「いつもの仕事」をこなすことは、知識労働より、肉体労働の方がらくだということを物語っているのかもしれない。

僕たちは、思考をサボりたがる性質があるということです。

考えることを避けるだけではなくて、僕たちは思考をすぐにやめる傾向も持っています。例えば、考え初めに出たアイデアを、すぐに結論としてしまうことがありませんか。たった一つのアイデアで結論づけ、複数のアイデアが出るまで考えないことはありませんか。これも思考をサボっているサインです。特にその結論が、「当たり前の、以前聞いたことある情報、言葉」だとしたら要注意です。本当は、考えたというよりも、ただ単に記憶の中から関連した情報をひっぱりだただけの場合があるからです。それは思考とは言いません。本当は、そこからが本当の思考で、もうあと15分、なんのアイデアが出なくても粘って考えたら、

本当に良いアイデアが出るかもしれないんです。

思考はサボる。 その認識がレベルを上げる

さて、どうして「思考をサボる」ことを強く認識していただきたいのか。

思考は、経験したぶんだけ、深くなります。誤解を恐れず端的に言うと、今よりもう一步深く考える時間を1分でもとるから深くなるんです。

と、同時に、他人に指摘されると「考えてるよ」と自己正当化をしたくなることもあるのも事実です。

だから本人自身が、もっと思考を深めようと言う意図を持って仕事に臨まなければ、深く考えることを身につけることが出来ません。

そして、ここからが問題です。にもかかわらず、自分の思考が浅いとか、深くできるという問題意識を持っている人は多くはありません。

問題に気がついていない場合、たとえ何十年たったとしても改善されない。

自分の態度ひとつで思考力は決まるからこそ、自分を戒める言葉として「人は誰でも、もう一步深く考えることができる」態度で仕事に臨む。するとそれだけで人生が変わります。

もしかしたら、あなたは世界で一番考える人間かもしれません。それでも「今日も、もう一步深く考えることができたんだ」と自分の中では後悔しておく程度が、深い思

考の入り口です。

考えることが価値を生み出す時代ですから、思考については、まだお伝えしたいことがあります。今後お伝えする機会もあるでしょう。おたのしみに。

吉井亮介

(了)

吉井亮介の無料レポートや
無料のメールマガジンへの登録
は、こちらのサイトからどうぞ。

<http://www.wacholder.jp/>